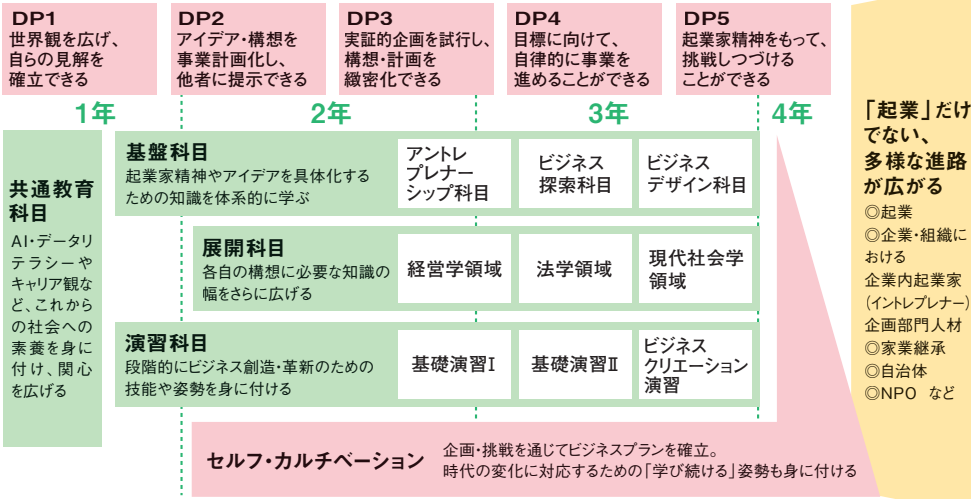


【アントレプレナーシップ学環(仮称)のカリキュラム】(予定)



*入学定員等は現時点での予定であり、今後変更される場合があります。

「二拠点総合大学」だから生み出せる価値とは何か

1965年、経済・理2学部で建学した京都産業大学。2016年以降は中長期計画「神山STYLE2030」に基づき、2020年までの第1期は新設・改組により教育体制の充実を図った。今では京都市郊外の1キャンパスに、10学部、1・5万人の学生が学ぶ「二拠点総合大学」となった。第2期(2021年)では、教学マネジメントを整備し、全学にデータサイエンス教育を導入。Society5.0時代に求められる教育の充実と努めている。第3期が始まる2026年度には、アントレプレナーシップ学環(仮称)を開設計定だ。事業計画を進める奥村靖之学長室課長によると、この背景には「二拠点総合大学だからこそ生み出せる価値を最大化したい」という狙いがある。拡充した10学部のリソースを生かし、中長期計画に掲げた「文理、分野融合型

の教育の実施」を推進する考えだ。その実現に向け、グランドデザイン答申で示された学部の枠を超えた学位プログラム「学部等連係課程」制度には、早期から注目をしていたが、学生ニーズの規模や実施体制の構築には課題があるため、まずはプログラムを設置することに決めた。学問分野は、ミッションに合致するものは何かという観点で議論した。「本学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成。予測困難な時代だからこそ社会志向で未来を構想し、自ら行動する人材が必要だ。新学環の入学者が社会で活躍する2030年以降の社会ニーズから逆算し、自学的特徴を核に対応すべき分野を考えた結果、アントレプレナーシップ教育に決まった」と(奥村氏)。

2023年度から10学部の教員が参画しアントレプレナー育成プログラムを実施。一定の学生ニーズが把握でき、産業界との連携も進んだことで、本制度を使った新学環設置の着手に至った。「起業には、経営学や商学だけでなく、法律の知識も欠かせない。社会課題の理解もなくては、ビジネスアイデアも出ないだろう。養成する人材像が既存の学問体系に収まるのなら学部の設置でもよいが、横断的な教育が不可欠であるなら、

分野横断型の学部等連係課程という形態が有効だ」と(奥村氏)。

社会や学生と対話を続け共に新学環をつくっていく

新学環の構想に際してはステークホルダーとの対話を重視し、DP案は起業家や企業人と話をしながら練った。素案は学生や高校教員にも見せて反応を探った。

「市場調査のデータだけを見て新設に踏み切っても学生が集まる時代ではない。社会の動きは複雑なので、さまざまな人に話を聞いて、仮説を検証し、確証を得ないと成功しない。構想を説明すると『おもしろい』『京産大らしい』という期待の声が聞かれ、自信になった」と奥村課長は言う。こうした対話の結果、設置前から新学環を推す人が増えているそうだ。

「18歳人口減下では大規模大学であっても、社会が共感するキラリと光るものがなければ生き残れない。それにはミッション(使命)、パッション(学生に向き合う姿勢)、アドミッション(受け入れる学生像)をしっかりと伝えていく必要がある。新学環設置は新規事業。われわれにもアントレプレナーシップを持って進めていくことが求められる」と(奥村氏)。

設置構想中の大学に聞く!

大規模総合私大の新設・改組のこれからは?

京都産業大学

アントレプレナーシップ学環(仮称)

入学員	30名
設置年度	2026年
学位の分野	経済学関係

キャンパス/京都府京都市
学生数(学部)/1万5487人 学部/経済、経営、法、現代社会、国際関係、外国語、文化、理、情報理工、生命科学

取材・文/本間学